

【卓球】

ITTFワールドツアーグランドファイナル



ワールドツアーグランドファイナルが12月13日から16日まで、仁川(韓国)で開催され張本君が出場し、最年少優勝を飾りました。

男子シングルスは16名によるトーナメント方式で行われ、1・2回戦を順調に勝ち上がった張本君は、準決勝ではCALDERANO Hugo選手(ブラジル)と、決勝では林高遠選手(中国)と対戦しました。決勝の第1ゲームは11対4で取りましたが、第2ゲームは13対15で落としました。しかし、その後の3ゲームを全て11対9で取り、初優勝を飾りました。

中国選手をはじめとして世界のトップレベルが集結した大会での優勝は、非常に価値のある勝利であり、2020年の東京オリンピックに向け、期待が更に高まりました。

ーワールドツアーグランドファイナルとはー

世界各地で開催されていたワールドツアーの年間ポイントランキング上位者のみが出場を許される大会。男女ともシングルスは中国がタイトルを殆ど独占しており、男子シングルスでは水谷選手が2010年、14年に優勝しており、張本君の優勝は日本人としては二人目。

《出場者枠》

○シングルス:ワールドツアーの上位15名と開催協会枠1名の計16名

○ダブルス:ワールドツアーの上位7組と開催協会枠1組の計8組

【卓球】

世界ジュニア卓球選手権

2018年世界ジュニア卓球選手権大会が、12月2日から9日まで8日間、ベンディゴ(オーストラリア)で開催されました。JOCエリートアカデミーからは宇田君、長崎さん、木原さんの3名が

日本代表として出場し、宇田君が男子シングルスで準優勝。木原さんが女子ダブルスで準優勝、同じく長崎さんが3位となりました。

また、団体戦では、男女共に準優勝を果たしました。

《男子シングルス》

宇田君は準々決勝で、徐瑛彬選手(中国)と対戦しました。1、2ゲームを落とし苦しいスタートとなりましたが、その後挽回し、最終ゲームを11対9で取り、ゲームカウント4対3で勝利しました。準決勝は向鵬選手(中国)と対戦し、ゲームカウント4対0で勝利。決勝は、徐海東選手(中国)と戦い、前半リードする場面もありましたが、逆転され、ゲームカウント1対4で惜しくも準優勝となりました。



昨年の大会で男子シングルス2回戦敗退という苦い経験がある中、中国選手を2人破り、決勝進出を果たす大健闘をみせました。最後の壁を破ることができなかったことは残念な結果でしたが、確かな手応えを感じており、今後の戦い方をしっかり学んで、さらに飛躍することを期待しています。

《女子ダブルス》



木原さんは相馬選手(遊学館高校)とペアを組んで出場し、1回戦はスロバキア、2回戦はインド、準々決勝ではチャイニーズタイペイに勝利し、準決勝に進出しました。

準決勝は中国との対戦になりました。ゲームカウント1対2と追い込まれた状況から挽回し、最終ゲームを11対5で勝利。決勝進出を果たしました。

決勝の相手も中国ペアとなりました。決勝ではリズムに乗り切れず、0対3のゲームカウントで敗れ、優勝は成りませんでした。

長崎さんは大藤選手(ミキハウスJSC)と組んで出場し、準決勝まで進出しましたが、木原さんペアを決勝で破った中国の黄凡真/石洵瑶ペアに敗れ、3位となりました。



【レスリング】

国際レスリング連盟表彰

世界レスリング連盟(UWW)は12月13日、2018年カデット世代の「レスラー・オブ・ザ・イヤー」(年間最高選手)として鏡さんを選出しました。鏡さんは世界カデット選手権2年連続優勝が認められ、受賞となりました。

また、修了生の乙黒拓斗君(山梨学院大)が「ブレイクアウト・パフォーマー・オブ・ザ・イヤー」(最も飛躍した選手)に選ばれました。乙黒君は2015年世界カデット選手権での優勝に加え、初の世界選手権出場での優勝(日本男子の最年少優勝記録を44年ぶりに更新)が評価され受賞となりました。

【レスリング】

天皇杯全日本レスリング選手権大会

2018年天皇杯全日本レスリング選手権大会が12月20日から23日まで駒沢運動公園総合体育館で開催されました。今大会は2020年東京オリンピック代表選考のスタートとなる大会であり、出場選手はオリンピック代表がかかるプレッシャーの中での大会となりました。

JOCエリートアカデミー在籍生としては、ただひとり、鏡さんが初出場を果たしました。鏡さんの対戦相手は国際大会優勝経験のある大学生ばかりでしたが、その3選手を破り、初出場・初優勝を達成しました。また、この大会では男子フリースタイル65kg級で乙黒拓斗君(山梨学院大2年)と女子53kg級で向田真優さん(至学館大3年)の修了生が共に優勝を果たしました。2人は昨年10月に開催された世界レスリング選手権大会でも優勝を果たしており、2020年に向けて期待が膨らみます。

一方、大会期間中に2018年日本レスリング協会表彰があり、全国中学生レスリング連盟年間最優秀選手賞が高橋海大君に贈られました。これは「全国中学生選手権・男子53kg級優勝」「U15アジア男子選手権・57kg級優勝」「全国中学生選抜選手権・男子57kg級優勝」によるものです。



【UWW年間最高選手賞、全日本選手権初出場初優勝した鏡さん】

【フェンシング】

全日本フェンシング選手権

第71回全日本フェンシング選手権大会(個人戦)が開催され、JOCエリートアカデミーからは吉田君、坪君、月野さんが出場、吉田君が男子サーブルで高校生としては初めての銅メダルを獲得しました。吉田君は予選リーグを4勝2敗で突破、決勝トーナメントでは、ナショナルチーム入りしているトップレベル選手を次々に破り、準決勝に進出しました。準決勝は昨年度優勝のストリート選手との対戦となり、リードを許したまま、5対15で敗れました。吉田君は、初のシニアの大会上位進出となり、日本のトップレベルに近づいていることを証明しました。

《吉田君感想》

「トーナメントでは、シニアの壁を超えてやるというチャレンジャー精神を胸に試合に臨みました。試合中も欲を出しすぎず、冷静な試合運びができ、実力の120%を出せたと思います。シニアの選手を破り準決勝へと進出しましたが、前年度のチャンピオンとの試合では、作戦がうまくいかずに焦ってしまい、惨敗してしまいました。とても悔しく、何もできなかった自分に腹が立つ試合でした。今回の試合では普段の自分の実力を発揮するという課題をクリアできたと思います。そのためにたくさん準備をしました。やり残すことがないように自分で時間を見つけて練習し、マイケルジョーダンがやっていることを参考に試合に臨みました。自分の実力を発揮することができればそれが結果につながるのだから、さらに上を目指すためには自分をコントロールする能力を身に付け、冷静でありながら強い闘争心を持つことが今の自分に必要だと感じました。この悔しさと経験を忘れずに新しいことにチャレンジして上を目指していきたいと思います。(原文抜粋)」

坪君も中学生ながら健闘し、ベスト32入りを果たしました。怪我からの復帰戦であり、コンディションが万全ではない中の試合は、今後の競技生活に多くの教訓を残すことになりました。

一方、女子サーブルでは月野さんが予選リーグを5勝1敗という好成績で突破し、その後リオオリンピックに出場した青木選手をも破る活躍を見せ、ベスト8入りを果たしました。この大会の女子サーブルベスト8には、月野さん以外にも、エリートアカデミー修了生の向江さん・江村さん(中央大)、高嶋さん(法政大)、脇田さん(日本女子体大)の4名が入りました。決勝は、修了生同士の戦いとなり江村さんが向江さんを破って初優勝を果たしました。

※平成30年度JOCエリートアカデミー修了式/送別会は3月17日(日)、午後1時30分から味の素ナショナルトレーニングセンター大研修室で行います。

公益財団法人 日本オリンピック委員会
JOCエリートアカデミー事業
〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1
味の素ナショナルトレーニングセンター
TEL:03(5963)0355/FAX:03(5963)0356

JOCエリートアカデミーだよりは以下のHPでもご覧いただけます。
<http://www.joc.or.jp/training/ntc/eliteacademy>